

岩田会長は、1988年に岩田塗装機工業（現アネスト岩田）に入社し、2002年まで塗装機器部に勤務。その後、営業や圧縮機事業部門でも活躍し、現在はコーティング事業部長を務める。

モットーである「アプリケーションを学び、アプリケーションを創造せよ」は、自身で勉強していかなければ次のものを作れず、社会貢献もできないということを示している。また、アメリカ・カリフォルニア州でのVOC規制対応時に、グローバルでの環境規制への対応に現在の課題を感じたという。

そこで、岩田新会長に課題と展望、また意気込みなどを聞いた。

——期の途中での会長就任となりました。

CEMAは、塗装機メーカー3社が発起人となり、1976年に設立されました。現在のCEMAを見ると会員の業種が増え、大きく変わっているという印象です。

会長就任依頼を受けたとき、私自身が15年ほど塗装機事業から離れていたもので、とても迷いましたが、CEMAで活躍している後輩たちがサポートしてくれる、といった後押しを受けてお引き受けしました。

今は、会員の皆さんとの話を通して、現在のCEMAをよく知ることが大事であり、毎日が勉強です。

——業界の課題、CEMAの課題はどこにあると思われますか。

私はアネスト岩田に入社以来、国内外の塗装機械の開発、工場技術、営業に携わり、塗装業界と接する多くの機会をいただきました。その中で常に目の前に現れる課題は、70年代のカリフォルニア州規制や90年代の京都議定書等のグローバルでの法規制対応です。その対応において、環境保全のために塗料が変われば塗り方や乾燥方法も変わります。

現在もまた、世界経済の持続的で力強い成長を目指した諸問題や諸制約への挑戦もあり、塗料・塗装・塗装機械業界は“協働、して常に前を向き、市場ごと、エリアごとでの対応を続けることが求められていると思っています。

——今後、どのようにCEMAの活動を周知していきますか。

地球環境保全のために世界先進諸国の塗料メーカー・塗装機メーカーがしのぎを削って開発を進めている「塗料」「塗装機械」を活用し、世界で活躍する日本企業には、産業機械やIT技術を駆使した「自動化」、安定した品質を確保した生産工程の「効率化」、環境に寄与した「排出物削減」への解決策の提起が求められます。

すでにCEMAでは、代々の諸先輩方に進めていただいたベースがありますので、今後はさらなるディスクロージャーにより広く周知するため、塗料メーカー・塗装機メーカー同士の“コラボレーション”の機会創出を加えて行かなければならないと考えています。

また、世界市場には開発途上、発展途上と言われる国々のみならず、自動車製造業やIT機器製造業等の先進技術に挑戦している国々においても、まだまだ「塗装」という目的や価値を受け入れていない事実が多く見受けられます。

塗料や塗装方法を通して、「モノの保護」「美観による生活環境改善」「遮熱、抗菌、防カビ等の機能付加」を、伝授していくことも社会貢献として必要です。ASEAN、インド、南米諸国、アフリカ諸国等々では、まだ靴墨を塗るかのように色付けしたり、先進国でも適切でないアプリケーションで塗っている例が多く見受けられますので、技術などを世界に向けて発信し、少しでも支援ができればと考えています。

CEMAとしていつか機会を設け、会員間や関連業界・団体と意見交換してみたいと思っています。このような想いに賛同いただけるのであれば、是非ともCEMAに参加いただきたいと願っています。

——最後に新会長として一言お願いします。

CEMAの21世紀ビジョンでは、「グローバル展開」「作業環境と地球環境の保全」「共存共栄」を掲げています。

グローバル化、IT化がさらに進むにつれ、CEMAの責任は益々大きくなります。しっかりと役割を明確にし、CEMA会員間はもちろんのこと、関連業界・団体の方々とも協働、していきます。

——ありがとうございました。